

○「農業懇談会 今後の検討内容を整理」

(京都府宮津市 養老地区連絡会議)(令和元年度第2回)

担い手への
農地利用の
集積・集約化

遊休農地の
発生防止・
解消

新規参入の
促進

その他
(農業委員会の
体制強化等)

1 活動の日時や時期、場所等

- 日時(時期): 令和元年7月22日(月) 19:30~21:30
- 場 所: 宮津市養老集会所
- 出席者: 小嶋委員、品川推進委員、協力員8人、市1人、事務局2人
※委員2人、委員以外11人
- 報告者: 増田 英雄 農業会議現地推進役

2 地区の特徴、状況、課題

- 大島…農業法人せんごくが地域の農地の受け手となっており遊休農地はない(常勤3人、水田4ha、ハウス18棟)
- 里波見…農家50戸、農地の条件が悪い 中波見…農家20戸、営農組合が高齢化
奥波見…農家8戸(50年前は28戸)、後継者なし、農家2人が中心

3 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化推進の取組と工夫)

- 農業懇談会
 - 養老中部 中核的担い手(農)せんごく、65歳以上3人が従業員。営農継続には若い担い手確保が必要
雇用経費の捻出が課題(経営が厳しい)
 - 田原地区 営農者60歳以下2人。営農組合あり
 - 波見地区 後継者不足は農地の地形(法面が広い)が問題では 水稻のみでは継続できない
地域としては「里山」を残したい 中山間事業継続が課題 移住者受入を検討
- 利用状況調査(農業委員会事務局から説明)



4 活動結果

- 情報・意見交換 2 時間
- 担い手への集積 a 増加
- 遊休農地面積 a 解消
- 新規就農者 人 支援